

猛烈に奸邪を誅伐することの喩

『春秋左氏傳』（文公十八年）に「見無禮於其君者、誅之、如鷹鷂之逐鳥雀也」に拠る語。

『漢語大詞典』では、「①比喩忠勇の人。語出『左傳』文公十八年 見無禮於其君者、誅之、如鷹鷂之逐鳥雀也」「②比喩凶殘的人」と説明し、劉向の『説苑』（敬慎）の「臣聞之、行者比於鳥、上畏鷹鷂下畏網羅」の用例を引く。

11○老僕：年をとったしもべ。老奴。

川口久雄氏は、古典文学大系本の補注で「507に〈老僕要綿切〉とある人と、ここの老僕はおそらく同一人」と言及されている。その他に『菅家文章』「360 假中書懷詩」に「日高催老僕、掃除庭上沙」の句が見える。

○扶杖：つえにたよる。

『史記』「萬石君傳」に「萬石君卒、長子郎中令建、哭泣哀思、扶杖乃能行」の例が見える。

『漢語大詞典』には「扶杖（＝支杖）」と説明し、韓愈の「人日城南登高」詩の「扶杖陵圯隄、刺船犯枯葑」の句を引く。『菅家文章』「231 重答」に「今朝幸軟慙慙問、扶杖歸時斗米提」の句が見える。

12○疲驂：疲れた副馬。

『漢語大詞典』では「猶疲驚、常以謙言已無能」と説明し、李紳の「肥河維舟阻灤祇待勅命」詩の「疲驂豈念前程稅、倦鳥安能待暮還」の句を、又元稹の「為肅相國讓官表」の「自顧疲驂方求息駕、豈謂陛下特迂宸鑒、曲用朽才」の用例を引く。『菅家文章』「75 秋日山行二十韻」に「疲驂嘶布水、老僕困綿嶠」の句が見える。